

墨水会だより

(旧府立第七中学校) 都立墨田川高校全日制同窓会 発行責任者 井上 常一



本紙「墨水会だより」は本号で第20号の発行となります。

今回は第20号の発刊を祝し、会報『墨水会だより第20号』記念として発行することに致しました。

内容も通常のA4判16頁一部カラーを、A4 20頁オールカラーとして発行することにしました。

会報は墨水会の活動や会員の消息、母校の現況や進学情報、職員の先生や美汀会(PTA)の活動、軽井沢の七生寮、館山の楽水寮の2寮運営の母体である一般財団法人七星会の経営状況などかなりの情報を伝達しなければならない使命があります。

近年I・Tの普及により母校でホームページを開設し、ほぼ2週単位で更新しています。

墨水会では母校のホームページを使用し情報の伝達を行っているため、会報に多少の余裕が出来たが、現在でもパ

ソコンを利用していない会員の方も多数あるので、会報の年度発行はどうしても必要です。

その他文字を印刷した文書ならではの効用もまだまだ多くあるので、今しばらくは文書記録が残せる会報の発行が不可欠であると考えています。

20号記念の表紙は、地元向島に題材を求め、母校の北、東向島3丁目にある鎌倉時代に創建されたと伝えられ、古い歴史を持つ曹洞宗の名刹 清河山法泉寺の参道に咲く若い紅しだれ桜の優美な姿を掲載します。

この桜の花は平成18年の会報第13号の表紙にも花の一部を撮影し掲載したが、今回はその全景を撮影し、東京では少ない紅しだれの美しく咲いた容姿をご覧ください。



ご挨拶

墨水会会長 墨田川 三 回

井上 常一

墨水会会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。

昨年は母校の創立九十周年にあたり、学校・美汀会（PTA）・墨水会等の関係諸団体の会員の皆様と呼び掛けを行い、記念事業の実行についてのご協力をお願い致したところ、卒業生各位には早速ご支援ご協力を頂戴し、お陰様で昨年十月六日の開校記念日に、記念式典、祝賀会を立派に開催することが出来ました。

ご支援ご協力を戴きました会員各位には、紙上を拝借し格別の謝意を申し上げる次第です。

なお、同事業の一環として記念誌の発行が残っておりますが、九十周年記念誌の上梓は本年三月下旬の予定でございます。出来上がり次第お手元にご発送致す予定となっておりますので、いま暫くお待ち下さるようお願い致します。

さて、まず母校の現況について申し上げます。平成十二年に進学重視型単位制高校として新たに発足した母校の改革も第三期に入り、平成二十三年度に文武両道を提唱され第二期の改革に情熱を傾けられた佐藤光一校長先生の後任として着任された、母校OB（S四十八卒）の柴田 哲校長先生も母校の改革には大変な熱意を持たれる先生で、前任は西部学校支援センターの支所長を歴任され、都立高校の教育活動には精通されている大変貴重な存在の先生です。

柴田校長先生は文武不岐を唱えられ、佐藤前校長先生より更に一步踏み込んだ改革を提案されています。

その①が夏期講習の五月提示、その②には、大学センター試験レベルの実力テストの実施、その③では、自宅学習時間調査の実施、その④では、三年間を見通した進学指導計画の点検と改善、その⑤では、国公立大学受験を主体においた新教育課程の策定、の五項目を提案し、二十三年度より実施しています。

この結果主要大学合格者数も、平成十九年度からの現役合格率を見ると、過去五年確実に数%の伸びを示し、昨年度には二十年度比の十%近くの伸びを達成しています。

また、母校への応募率も確実に上昇しており、今後の「文」である学業は勿論、学問と一体である「武」の益々の発展が楽しみです。

二十六年ぶりに都大会に出場したサッカー部は、OBの百瀬先生（S四十六卒）指導のもと、七十数名の部員が熱心にサッカーに取組む姿が印象的です。水泳は四年ほど前、超高校級の選手が数名入学し、都大会は勿論インターハイにも出場し一躍墨田川高校の名がNHK TVの放送で全国に知られるところとなりました。中でも地田麻未さんは、八百米自由型で高校新記録を達成しロンドンオリンピックの候補選手となりましたが、残念ながら最終予選で標準記録を出すことが出来ず、惜しくも出場はなりませんでした。しかし他にも短距離の田辺詔子さん、山口真奈さん、などの素晴らしい選手が活躍

し、おおいに母校の名を全国に知らしめたのです。

また全国大会出場経験を持つ軟式野球部は、昨年度も都大会四回戦まで進出しましたが惜敗しています。その他ボート部は水泳部と共に、昨年盛岡市で開催された高校総体に出場しましたが、残念ながら予選で敗退しています。

文化部では本紙第十号の表紙写真を飾った吹奏楽部の活躍がめざましく、昨年度も東京都高等学校吹奏楽連盟コンクールで銀賞を獲得しています。

吹奏楽部は単なる演奏コンクールの出場にとどまらず、地域に密着した演奏会を開催し、地元に貢献しています。昨年五月には、東京スカイツリーの開業式に塔の真下の特設広場で、特別演奏を行い地元の方々はもとより出席した大勢の方々に好評を博しました。

次に墨水会の昨年の活動について申し上げます。

昨年は九十周年記念事業の遂行のため一昨年七月に、学校・美汀会・墨水会・墨汀会の合同で設置された九十周年記念準備委員会を十月に実行委員会とし、前例にもとづき墨水会会長の私が委員長に就任し昨年二月より本格的に実行準備に入りました。

お陰様で柴田校長先生はじめ学校職員の皆様、美汀会とそのOB会墨汀会の会員各位のご支援とご協力により、ティアラ江東で開催された式典、その後墨田産業会館で催した祝賀会が、四百人をこえる大勢の方々の参列を戴き、母校の卒寿を盛大に祝うことが出来ました。

昨年の墨水会総会は九十周年祝賀会が開催された墨田区錦糸町の墨田産業会館サンライズホール会議室で、百数十名の会員出席のもと、正午から開催しました。大変緊密なスケジュールであり、午前十時開会の式典終了後、会場移動を行い総会を開き終了後、同

川高校先生のご支援には感謝の言葉もありません。真に有り難うございます。

会員の諸氏には、本年度も母校発展のためより一層のご支援とご尽力、そして我がOB会である墨水会活動のご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

校長 墨田川25回 柴田 哲

文武不岐に基づく改革



墨水会の皆様方には、日頃より本校の教育活動への御理解 御支援を賜りまして、誠にありがとうございます。また、昨年十月の本校創立九十周年式典・祝賀会の実施・運営や部活動の全国大会への生徒の参加補助に對し、多大な御支援を賜りました。重ねまして、御礼申し上げます。

さて、本校は平成十二年度より新しいタイプの「進学重視型単位制高校」として、また、平成十九年度から「進学指導推進校」として、かつての進学校への復活に向け、再出発しています。今回の会報紙面をお借りしまして、校長としての考え方や具体的な方策等について、述べさせていただきます。御理解をさらに深めていただきたいと思います。

現在都立高校は、平成十五年度入学者選抜から学区を撤廃し、各校の単独選抜を実施しています。言い方を代えると、中学生の人気やニーズに応えているかどうかで、新聞報道されています。各高校の入試倍率の高低が明確に表れています。

その結果、平成十四年度からの大学進学指導に特化した「進学指導重点校」や「進学指導特別推進校」へのニーズが非常に高くなってお

会場の隣のホールでの祝賀会出席でありましたので、会員各位にはなにかと慌ただしくご不便をおかけ致し申し訳ありませんでした。

お陰様で総会議事もスムーズに四十五分間で無事終了し、サンシャインホールで開催する祝賀会に参列することが出来ました。会員各位のご協力に感謝申し上げます。さような次第で昨年度一年間の墨水会の活動は、母校の創立九十周年記念事業の準備に明け暮れたと言っても過言ではありません。

当日は日比谷公会堂で第二十回記念の東京校歌祭が開催されたので、校歌祭委員長の清澤副会長ほか、祝賀会に出席した六十数名の会員と美汀会会員の有志の方が、祝賀会場から校歌祭会場の日比谷公会堂まで駆けつけて戴き、校歌祭側の配慮により出場時間を繰下げて戴いた関係もあり、どうにか母校の校歌を歌い上げることが出来ました。

このような次第で、真に多忙な平成二十四年十月六日はめでたくお開きとなりました。次に墨水会が学校から委任され運営する軽井沢「七生寮」、館山「楽水寮」、二寮の運営の昨年度のご報告ですが、会報十九号にて運営母体の財団法人七星会について、本会顧問の海谷弁護士（S二十四卒）先生が（財）七星会の現状と将来との記事に詳細に記載されておりますので、簡単に記しておきますが、運営母体の財団法人七星会は昨年七月解散となり新たに一般財団法人七星会として移行設立されました。

この新法人移行の経緯は数年前より会報にて詳しく掲載致しましたので経緯は省略させていただきます。

とにかく昨年懸案であった新法人に総て移行が終了し、今後の経営は一般財団法人七星会として運営にあたることになりました。

この財団の移行について七年間ほど法的問題等に対処研究され、新定款作成などの諸

て取組むことが重要であると考えました。

このターゲット大学は、大学受験偏差値六十と言われている千葉大・埼玉大・学芸大・電通大・農工大・横浜国立大等の国公立大学と学習院 明治 青山学院・立教・中央・法政等の難関私立大学としました。また、これらのターゲット大学に合格するための目当てとしての「大学センター試験」レベルの一年次からの系統的数値目標を設定し、授業や教育活動を展開しています。

また、他校で見られるような目先の大学合格実績向上を目指した部活動や学校行事の規制強化は、絶対に行いません。むしろ、部活動や学校行事にも力を注ぎ、「文武不岐」を基盤とした教育活動の展開を通して、生徒の学校生活を充実させながら、限られた時間を如何に有効活用するか、生徒と教員がお互いに創意・工夫努力・評価 改善を図りながら、ターゲット大学の合格を目指す教育活動への転換に挑戦しています。

大学受験は、部活動で言えば「全国大会」です。大学入合格実績の著しい向上は、一朝一夕には図れません。現在、その成果は確実に現れています。

「文武不岐」を基盤とした具体的な取組を通して、生徒に「学力」「体力」「気力」そして「協力」という四つの「人間力」を身につけさせ、二十一世紀をたくましく切り拓くことができるリーダー育成に重点を置き、各界で現在ご活躍中の墨水会の先輩諸氏に続く人材育成を図ることが校長の責務と考えています。

今後、百年、百五十年と本校が更に発展し続けるためには、今まで以上に教職員が一丸となり、生徒の力量を高める様々な取組に挑戦していかなければなりません。先輩諸氏からは、まだまだなまぬるいとお叱りをいただくかも知れませんが、墨水会並びに美汀会をはじめ、関係各位の皆様方の御支援、御協力をお願い申し上げます。

墨水会だより 記念号 （第20号）

手続きを作成して下さった海谷先生には深く感謝申し上げます。そして新法人移行にあたり法人の財政、経理等の諸問題や経理会計上の事務手続きを行って下さった宮本雄司税理士（S五十三卒）先生にも深甚の感謝を申し上げます。

理事長は現校長柴田先生ですが、理事や評議員などの役員は定款の改正で、人事にかなりの変更がありました。なお詳細につきましては学校事務局までお尋ね下されば資料を公開しておりますので遠慮なくお出かけの上ご覧下さい。

旧法では財団事務所は学校でしたが、今回から学校には事務所を設置出来ない規則になり、やむをえず同窓会会長の自宅である私の住居を事務所と致し登記しました。

なお、この件に関する新法人の登記はすべてが本年一月までに終了致しましたのでご報告致すとともに今後のご支援とご利用をお願い申し上げます。

現在二寮は、夏季のみ母校生徒さんが全員どちらかの寮を利用しており、設備の改善も毎年少々ながら行っている状況です。そして墨水会からは、財団に毎年二百万円の経営支援を行っております。

軽井沢の七生寮は夏季の利用のみとなっていますが、宿泊の方に朝、夕食を提供する関係で、三年前まで東京から学校の食堂を担当している業者に泊まり込みで食事の提供と寮の清掃、宿泊者の管理等を委託しておりましたが、コスト、特に人件費の関係で、これを一時中止し、一昨年より試験的にOBの有志の方に依頼し、食事は現地の食堂業者に配達を依頼し、OB交替の当番により宿泊の管理と清掃を担当し、極力経費の削減を計りました。

その結果経費の三十%近くが削減されることがわかり、今後はこのような方法での経営を計るべく目下研究中です。

また毎年支援して戴く墨汀会（PTA OB

墨水会だより 記念号 （第20号）

楽水寮視察〔平成24年4月5日〕
井上会長、谷澤、清澤副会長参加
七星会理事會〔平成24年4月11日〕
井上会長、海谷顧問、谷澤副会長出席
90周年準備委員會〔平成24年4月14日〕
井上会長、谷澤、清澤副会長出席
七生寮視察〔平成24年5月8日〕
海谷顧問、谷澤、清澤副会長参加
90周年実行委員會〔平成24年5月19日〕
井上会長、谷澤、清澤副会長出席
学校運営連絡協議會〔平成24年5月24日〕
井上会長、清澤副会長出席
七生寮視察〔平成24年5月24日〕
海谷顧問、谷澤副会長参加
美汀会歓送迎會〔平成24年5月26日〕
井上会長はじめ8名出席
七星会理事會〔平成24年5月29日〕
井上会長、海谷顧問、谷澤副会長出席
七生寮視察〔平成24年6月11日〕
海谷顧問、谷澤副会長参加
七星会理事會・評議委員會〔平成24年6月13日〕
井上会長はじめ9名出席
90周年実行委員會〔平成24年6月16日〕
井上会長はじめ6名出席
七星会理事會〔平成24年6月21日〕
井上会長、海谷顧問、谷澤副会長出席
90周年実行委員會〔平成24年6月30日〕
井上会長はじめ7名出席
楽水寮視察〔平成24年7月16日〕
谷澤副会長参加
七星会理事會・評議委員會〔平成24年7月17日〕
井上会長はじめ8名出席
90周年実行委員會〔平成24年7月27日〕
井上会長はじめ7名出席
七生寮視察〔平成24年8月26日・27日〕
井上会長はじめ16名参加
90周年実行委員會〔平成24年9月8日〕
井上会長はじめ5名出席

開 始 残 高	
平成23年7月1日	
(単位：円)	
1 資産の部	
定期預金（一般口座）	10,000,000
〃（寄付口座）	5,000,000
普通預金（一般口座）	5,833,129
〃（寄付口座）	686,365
現金	123,327
在庫品	4,151,000
資産の部合計	25,793,821
2 繰越の部	
繰越金	23,770,623
前期剰余金増加額	2,023,198
繰越の部合計	25,793,821
閉 鎖 残 高	
平成24年6月30日	
(単位：円)	
1 資産の部	
定期預金（一般口座）	13,000,000
〃（寄付口座）	3,000,000
普通預金（一般口座）	4,305,938
〃（寄付口座）	3,329,638
現金	-12,038
在庫品	3,034,500
資産の部合計	26,658,038
2 繰越の部	
繰越金	25,793,821
当期剰余金増加額	864,217
繰越の部合計	26,658,038
平成23年度墨水会収支計算書及び諸帳簿関係書類を監査した結果、その数字は正確であり、かつ正当であった。各帳簿、領収書、証拠書類の保存整理も整然としてあったことを御報告申し上げます。 平成24年10月6日	
墨水会	会計監査 宮本雄司
	会計監査 石井 温



1 収入の部		(単位：円)
科 目	金 額	摘 要
23年度卒業生入会金	2,552,000	319人×8,000円
名簿代(23年度卒)	1,268,000	317人×4,000円
寄付金	2,640,540	223名, 2団体
名簿販売	8,000	2冊
名簿代金	45,800	(株)サラト
利子	9,742	
当期収入合計(A)	6,524,082	
2 支出の部		(単位：円)
科 目	金 額	摘 要
墨水会会報費	513,450	3,000部
総会費	222,323	往復葉書等
名簿作成費	72,870	小冊子350冊
校歌祭費	115,740	参加費10万円等
通信費	345,380	墨水会だより郵送切手代等
会議費	476,802	常任幹事会、広報委員會等
寮関係費	19,000	七生寮視察補助等
渉外費	92,000	美汀会 新年会、歓送迎会
事務委託費	685,800	小荷田さん・谷澤給与・交通費
寄付金	2,000,000	(財)七星会
当期支出合計(B)	4,543,365	
3 当期剰余金の部		(単位：円)
科 目	金 額	摘 要
当期収入合計(A)	6,524,082	
当期支出合計(B)	4,543,365	
当期収支差額(A)-(B)	1,980,717	
期首在庫品(C)	4,151,000	名簿1,186冊
期末在庫品(D)	3,034,500	名簿867冊
当期剰余金(A)-(B)-(C)+(D)	864,217	前期剰余金 2,023,198
繰越金計算書		(単位：円)
前期繰越金	25,793,821	
当期剰余金	864,217	
次期繰越金	26,658,038	

以上のとおり御報告申し上げます。

平成24年10月6日

墨水会 会長 井上常一
墨水会 会計 赤津吉延
墨水会 会計 谷澤尚樹

平成23年度墨水会会計報告

収支計算書(平成23年度)

平成23年7月1日から平成24年6月30日まで

1. 第89回墨水会総会
平成23年10月1日 於 東天紅上野店
一般会員53名、周年会員18名、旧職員5名、現職員9名、美汀会3名、墨汀会1名、ブラスバンド部OB・OG14名の合計103名の出席をいただき、午後5時より総会が開催されました。井上会長の挨拶の後、柴田校長より学校の活動報告等があり、その後審議に入り、難波副会長より事業報告が行なわれ、その後谷澤会計より会計報告、宮本監査により会計監査報告が行なわれました。そして最後に新役員の承認が拍手をもって行なわれ、全ての議事を終了しました。その後懇親会に移り、若手OB・OGによるブラスバンド演奏、有志による余興などで盛りあがるなか、午後8時頃全員で校歌を合唱し散会しました。
2. 第19回校歌祭
平成23年10月1日 於 日比谷公会堂
井上会長の学校紹介の後、ブラスバンド部のOGによるピアノ伴奏と指揮のもとに50名の参加者が、応援歌と校歌を歌いあげました。
3. 役員会
平成23年11月8日 於 丸福
井上会長はじめ11名の出席者があり、90周年事業についての話し合いが行なわれました。又次回の常任幹事会について話し合われました。
4. 広報委員會
平成23年11月24日 於 同窓会室
第1回目の広報委員會が8名の委員の出席で行なわれ、墨水会だより19号発刊にむけての打ち合わせが行なわれました。
5. 第1回常任幹事会兼忘年会
平成23年12月7日 於 今半
26名の出席があり、89回総会・懇親会について報告があり、次年度の総会について話し合われ、最後に会計報告が行なわれながら、来年度の総会や90周年行事などについて雑談し、楽しい一時を過ごし散会しました。
6. 広報委員會
平成23年12月21日 於 同窓会室
第2回目の委員會が行なわれ、8名の委員と株式会社サラトの担当者で墨水会だより19号発刊について話し合いが行なわれました。
7. 広報委員會
平成24年1月11日 於 同窓会室
第3回目の委員會が行なわれ、7名の委員と株式会社サラトの担当者で原稿の読み合せや割り付け等が行なわれました。
8. 広報委員會
平成24年2月6日 於 同窓会室
第4回目の委員會が7名の出席者で行なわれ、最終校正が行なわれました。
9. 役員会
平成24年2月14日 於 曳舟文化センター
12名の出席者があり、90周年事業における墨水会としての取り組みについて、又墨水会への入会拒否の卒業生の取り扱いについて等の話し合いが行なわれました。
10. 第2回常任幹事会
平成24年4月11日 於 墨田川会議室
33名の出席者があり、総会・校歌祭についての報告の後、90周年事業についての話しがあり、墨水会より200万円の寄附をする事になりました。最後に墨水会だより19号を各委員に配布し散会しました。
11. 第3回常任幹事会
平成24年6月21日 於 墨田川多目的ホール
28名の出席者があり、90周年式典総会・祝賀会・校歌祭について話し合われました。又今年度も水泳部、ボート部に対する寄附のお願いが学校よりありました。
12. 第4回常任幹事会
平成24年7月17日 於 墨田川多目的ホール
30名の出席者があり、90周年行事について話し合われ、墨水会からの寄附を300万円にする事に決定しました。又墨水会会員に対する総会・祝賀会の案内をどのようにするか討議され、今年度については往復葉書は使わない事になりました。
13. 第5回常任幹事会
平成24年8月10日 於 墨田川多目的ホール
26名の出席者があり、90周年当日についての説明があり、総会・祝賀会・校歌祭の案内が封筒・切手と共に各幹事に配布され散会しました。
14. 役員会
平成24年9月12日 於 大將
井上会長はじめ12名の役員が出席し、90周年行事当日の祝賀会・総会・校歌祭につ

15. 役員会
平成24年9月13日 於 同窓会室
90周年祝賀会の連絡が行っていない期の常任幹事に案内を送りました。又墨水会総会のための事業報告、会計報告等の作成が行なわれました。
- その他
七星会理事會〔平成23年10月5日〕
井上会長、海谷顧問、谷澤副会長出席
90周年準備委員會〔平成23年10月15日〕
井上会長、谷澤、清澤副会長出席
七生寮視察〔平成23年10月27日〕
谷澤、清澤副会長参加
七星会理事會〔平成23年11月10日〕
井上会長、海谷顧問、谷澤副会長出席
90周年準備委員會〔平成23年11月26日〕
井上会長、谷澤、清澤副会長出席
七星会理事會〔平成23年11月28日〕
井上会長、海谷顧問、谷澤副会長出席
学校運営連絡協議會〔平成23年12月1日〕
井上会長、清澤副会長出席
美汀会新年会〔平成24年1月7日〕
井上会長はじめ8名出席
90周年準備委員會〔平成24年2月4日〕
谷澤、清澤副会長出席
七星会理事會〔平成24年2月9日〕
井上会長、海谷顧問、谷澤副会長出席
90周年準備委員會〔平成24年3月3日〕
井上会長、谷澤、清澤副会長出席
学校運営連絡協議會〔平成24年3月8日〕
井上会長、清澤副会長出席
墨水会だより19号完成〔平成24年3月9日〕
3千部完成

平成24年度 墨水会事業報告

平成23年総会(10月1日)〜平成24年10月5日

いての報告の後、話し合いが行なわれ、祝賀会の出席者が予想よりだいぶ少ないので再度案内を配布する事になりました。



平成二十四年度 総会報告

墨田川15回 谷澤 尚樹

第九十回墨水会総会は十月六日にJ R錦糸町駅近くの産業会館八階で開催されました。九十周年祝賀会の行なわれる前一時間という事でいそがしい時程の中会長挨拶の後、事業報告、会計報告、会計監査報告が行なわれ、全ての議事が承認され無事総会は終了しました。

尚、事業報告は4ページに、会計報告は5ページに記載されており

創立90周年記念式典

墨田川13回 横井 正男

平成24年10月6日(土)に母校の「創立90周年記念式典」が江東区・ティアラ江東において開催されました。式典には全校生徒・教職員・美汀会委員・来賓が、また墨水会からは井上会長以下副会長ほかが参列しました。

式典は二部構成で、第一部では国歌斉唱に続き柴田哲学校長(高校25回)の式辞で始まり、来賓祝辞に続き、井上第一墨水会会長(高校3回)が創立90周年記念事業実行委員長として事業の経緯などを交えて挨拶されました。生徒代表伊藤瑛君(3年生)の元氣な挨拶のあと校歌斉唱で厳肅な中にも明るい第一部式典が閉式しました。

式典の第二部では、吹奏楽部のコミカルな演奏、音楽部の合唱が披露されました。続いての記念講演は墨水会員である「THE ALFEE」の坂崎幸之助氏(高校25回)が、同期の卒業生であつた柴田校長を壇上に誘い、当時の楽しかった思い出・当時は話せなかった裏話や音楽の道に進んだ経緯などを二人の対談形式で行い、会場に爆笑の渦を沸かせました。楽しい賑やかな第二部の式典は、再び校歌の大合唱で幕を閉じました。



井上会長挨拶



二〇二二年十月六日、錦糸町「墨田産業会館」にて墨田川高校創立九十周年の祝賀会が開催されました。

この九十周年の日は、式典、墨水会総会、祝賀会、そして二十周年を迎える校歌祭に出演と、各々会場を変えての事になり、大忙しの日となりました。

時間通り祝宴の開会となり、皆受付をし会場へと入場しましたが、なかなか受付業務がスムーズにいきませんでした。美汀会の皆さん、墨水会の役員が協力し、なんとか上手く行くようになり、なかには、「新聞でみて来たのだが、大丈夫か」と言う人も居ました。

開会の言葉から始まり、いろいろな方の御挨拶が有り、ブラバンOBによる演奏、そして、校歌と、万才三唱まで、和氣あいあいの中、話に花を咲かせていました。

料理は八十周年と同じケータリングの会社でした。一流の処は味も、盛り付けも良く、宴の雰囲気盛り上げました。打合せ準備の段階で、十年前の祝宴の写真迄提示してくれたのには感心し、ここに決めて良かったと思います。又式典で講演をして下さった坂崎幸之助氏も出席され、ムードを盛り上げて下さり、成功の内に終了したと言つて良いのではないかと思います。

この次は百周年です。十年間覚えてられれば良いのですが、この九十周年を参考に、出来るよう、努めたいと思っています。

祝賀会



墨田川15回 竹鼻 宏子



梶原副会長挨拶



平成24年度、美汀会会長を務めさせていただいております斎藤美世子です。

我子達が幼稚園の頃からPTA活動に協力させていただいてきましたが、会長という役職は初めてのことですので、皆様方にはご迷惑をお掛けしたのではないかと心配しております。

墨水会の諸先輩方には日頃から生徒達への多大なるご支援をいただきまして感謝し尽くせない気持ちでいっぱいです。

全国大会を応援する会では寄付金をいただきました。

七生寮・楽水寮の管理・運営をしていただき、生徒達も自然の中で奉仕活動の体験をすることができております。

又、今年度のビッグイベントでありました90周年行事におきましては、昨年度から準備いただき、学校・美汀会も力を合わせ二丸となつて、素晴らしい式典・祝賀会をとり行うことができました。

改めて諸先輩方の母校に対する熱い想いと愛情を感じた次第でございます。この様な諸先輩方・地域の皆様方から愛されている墨田川高校の会長を務めさせていただいたことは、この上ない喜びでございます。本当にありがとうございました。

この伝統ある墨田川高校が次の100周年に向けて益々発展成長して行きますよう、墨水会の皆様にご支援お願いいたします。

最後に一番大切なこと、皆様方のご健康をお祈りいたします。

美汀会ご挨拶



美汀会会長 墨田川31回
斎藤 美世子

訃報

片桐 重延 先生



昭和六十二年四月より平成十二年三月までの三十四年間校長として本校のためご尽力いただきました。この間第一校舎の完成祝賀会を催し、又七生寮の増築工事を行ったりしていただきました。退職後も学校の方にも良くお見えいただきましたが、平成二十二年に逝去されたとの連絡がありました。ここに謹しみて哀悼の意を表すと共にご冥福をお祈り致します。

菊池 文次 先生



平成八年四月より平成十二年三月までの四十四年間校長として本校のためご尽力いただきました。先生は墨田川高校に進学型単位制を導入するため努力され、新宿高校、国分寺高校よりは早い時期に単位制を実現し、新制度の基礎をつくられました。具体的には第二校舎の完成、新教育課程の編さん等単位制に必要な諸課題の実行に取り組みしました。先生は退職後体調をくずされておりましたが、平成二十四年十一月に逝去されました。謹しみて哀悼の意を表すと共に、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

高校四回卒業の写真家細江英公氏は日本写真界並びに世界の写真界でのすぐれた写真活動の成果を評価され日本に於ける文化活動の最高の名誉である文化功労者に推挙選定されました。

細江氏は墨高在学時代より写真撮影の道に入り写大卒業後フリーランスとして数々の作品を発表し、日本写真家協会賞はじめ、栄誉ある多くの賞を受賞され、現在も活躍されています。

特に学生時代にフジフォトコンテストで大賞を受賞した外国人の子供の作品で、彼の拔群な英会話力に驚かされた記憶があります。

この力を利用して当時日本人が入る事が出来なかった米軍のキャンプに通い、入賞した有名な作品を撮ったのです。



墨田川四回(昭和27卒)
細江英公氏
平成二十三年度
文化功労者の
荣誉に浴す。

会員の出版書籍のご案内



母校墨田川高校のOBには作家の先生方が多く出ておられます。

月刊現代の2008年新年特大号でも『受け継がれる志 第37回のグラフィア頁で3人の著名作家、半藤一利・佐野真・宮部みゆきの三氏の鼎談が紹介されました。

母校のOBには他にも多くの作家や文筆家、評論家の先生が活躍されている。

今回、プロの文筆家ではないが、個人的に書かれた文書が出版されている3氏をご紹介します。

まず日本図書館協会選定図書に自然科学部門より選ばれた図書『ロマンチック海道』とのタイトルで、成山堂書店から刊行された高校15回、昭和38年卒の佐久間誉氏著の書籍で、元フェリー船長が長年の航海の間に見聞したことを、興味深いエピソードをまじえ、いきいきと描いた作品です。

海の1コマを写しとる船長の眼差しが光る作品です。

作品の30頁には母校紹介のくだりも掲載されています。

次は同じ商船学校卒業後運輸省航海訓練所を出られ、その後海王丸など多数の船の船長を務められ、航海訓練所所長、日本パイロット協会専務理事などを歴任された中学23回昭23年卒の荒川博氏の作品をご紹介します。

氏の主な著書には『船と風にまつわる言葉たち』『千里一日五里』千日』『半藤一利氏との共著に『風の名前 風の四季』等がある。

今回出版された本は『姉・妹と昭和の海』と題する国産帆船の初代日本丸・海王丸の物語りから戦中、戦後を経て再び日本海運が世界に雄飛するまでの歴史を記し、世界の海を航海した荒川氏の集大

90周年記念行事予算執行状況

平成24年11月10日現在			
収入総額	5,498,380		
支出総額	3,785,390		
残 額	1,712,990		

収 入

項 目	予算額	収入額	収入額(公費分)	増 減	
公費	596,000		412,380	183,620	
美汀会	2,100,000	2,100,000		0	
墨水会	3,000,000	1,500,000		1,500,000	
祝賀会	2,000,000	1,355,000		645,000	@5,000×271名
雑収入	0	131,000			寄付等
合計	7,696,000	5,086,000	412,380	△2,610,000	

支 出

項 目	予算額	支出額	支出額(公費分)	残 額	
総務費	610,000	375,420	77,700	156,880	
消耗品費	50,000			50,000	コピー代等
印刷	300,000	284,970	77,700	△ 62,670	案内状・式次第・挨拶状等
通信運搬費	150,000	83,430		66,570	郵券・振込手数料
会議費	10,000			10,000	
諸雑費	100,000	7,020		92,980	感謝状ホルダー 式典・祝賀会タクシー
式典費	950,000	135,240	334,680	480,080	
会場費	420,000	2,240	304,680	113,080	会場使用料・付帯設備等
式典用生花	30,000		30,000	0	
看板	50,000	28,000		22,000	
講師謝礼	300,000	100,000		200,000	
諸雑費	150,000	5,000		145,000	公演花束
記念費	3,825,000	1,339,450	0	2,485,550	
記念誌	1,800,000			1,800,000	@600×3,000部
記念品	1,500,000	870,450		629,550	@500×3,000個
記念菓子	525,000	469,000		56,000	紅白饅頭(@350×1,500個)
祝賀会費	2,000,000	1,522,900	0	477,100	@5,000×400名
会場費	1,750,000	188,240		347,260	
祝賀会飲食費		1,214,500			
アトラクション費	200,000	100,000		100,000	
諸雑費	50,000	20,160		29,840	振替用紙印刷代等
予備費	311,000	0		311,000	
支出額計	7,696,000	3,373,010	412,380	3,910,610	

平成24年度 全国大会出場を応援する会 寄付金一覧 (水泳部・ボート部)

収 入 (単位：円)

寄付者	件 数	金 額
今年度寄付額	50	445,000
うち墨水会関係	10	78,000
その他の寄付	40	367,000
繰越金		110,501
合計		555,501

第16回 寄付金一覧

平成24年1月～平成24年12月末日

会計

墨田川10回 赤津 吉延
墨田川15回 谷澤 尚樹

今回は創立九十周年祝賀行事とも重なり多額の寄付をいただきました。寮維持管理のための寄付と、九十周年に対する寄付で二百三十五名の方々と三団体

より合計三百二十五万六千三百四十八円(利息も含む)のご寄付をいただき、ことにありがとうございます。例年通り三月に(財)七星会に二百万円の寄付

をし、又九月には、九十周年実行委員会へ百五十万円の寄付をおこないました。以上ご報告申し上げます。

府立第七中学校

第10回

飯島俊夫

第12回

墨水十二期会

第15回

岡崎真一郎

第16回

小川俊一

都立第七中学校

第18回

毛利英三

恵畑欣一

大高昭喜

大久保喜市

鈴木文男

橋爪鶴麿

石井善次郎

氏橋幸次郎

梅田好男

大曾根弘一

小松昭介

坂巻俊雄

白井忠彦

住吉孝男

田中充

鶴間藤一

戸谷是公

中島藤五

羽島博愛

花沢正造

廣瀬栄一

堀秀成

武藤鎮夫

森野博

藪下郁男

坂本義雄

小松昭介

松本賢香

清水秀夫

須原康夫

井上和男

三好正也

木下孝一

本間和俊

内田勝久

早川幸男

五十嵐康朗

金子一男

安井久一

灰谷和正

中佐一男

伊藤照男

松田俊宣

海谷基治

石井信男

西村正

小林昭夫

秋元健一

平塚久裕

三好正也

木下孝一

本間和俊

内田勝久

早川幸男

五十嵐康朗

金子一男

安井久一

灰谷和正

中佐一男

伊藤照男

松田俊宣

海谷基治

石井信男

西村正

小林昭夫

五島芳夫

高田豊信

井出勝彦

金子忠正

井上常一

藤原剛

中村良吉

細江英公

飯田利一

小清水良一

森田信義

小林吉郎

米山徹

瀬川昌宏

島村元紹

石橋健治朗

三木鉄也

白井敏夫

梶原徳二

田村利明

辻田耕作

兵頭勝

内田博万

亀野正一

高橋正章

島田眞一

山下光雄

辻村節子

釜井節夫

野中信男

茶谷正義

高橋士郎

横田さだ子

小林啓司

池田勝英

小野新平

矢後長洋

石崎健一

橋本喜雄

杉本陽子

金田拓夫

伊藤文雄

杉山祥子

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

塩原晴夫

平成24年度(第64回生他)大学・短大合格状況

国公立大学

合格者延べ人数			
大学名	現役	過年	計
帯広畜産大		1	1
千葉大	1		1
東京芸術大		1	1
東京海洋大	1		1
山梨大	1		1
首都大東京	1		1
埼玉県立大	1		1
横浜市立大		1	1
国公立大学計	5	3	8

私立大学

合格者延べ人数			
大学名	現役	過年	計
慶応大	1		1
上智大	1		1
東京理大	6		6
早稲田大	1	1	2
上記4大学計	9	1	10
青山学院大	5		5
学習院大	2		2
中央大	3		3
法政大	21	1	22
明治大	8	1	9
立教大	20		20
上記6大学計	59	2	61
成蹊大	7		7
成城大	4		4
武蔵大	7		7
明治学院大	7		7
上記4大学計	25		25
駒澤大	16		16
専修大	8		8
東洋大	62	5	67
日本大	49	5	54
上記4大学計	135	10	145
亜細亜大	6		6
国土館大	14		14
大東文化大	15		15
帝京大	11	1	12
東海大	12	1	13
跡見学園女子大	1		1
江戸川大	3		3
桜美林大	2		2

大学名	現役	過年	計
大妻女子大	3		3
学習院女子大	1		1
神奈川大	3		3
鎌倉女子大	2		2
川村学園女子大	1		1
神田外語大	3		3
関東学院大	2		2
北里大	1	2	3
共立女子大	4		4
杏林大	1		1
工学院大	2	1	3
国学院大	7	2	9
芝浦工大	4	1	5
淑徳大	1		1
順天堂大	3		3
昭和音大	1		1
昭和女子大	5		5
女子栄養大	1		1
女子美大	1		1
白百合女子大	3		3
杉野服飾大	2		2
清泉女子大	1		1
聖徳大	13		13
創価大	5		5
大正大	6		6
拓殖大	6		6
玉川大	4		4
多摩美大	2		2
千葉工大	13	6	19
千葉商大	3		3
津田塾大	2		2
帝京科学大	5		5
帝京平成大	5		5
東京有明医療大	1		1
東京医療保健大	3		3
東京家政大	1		1
東京家政学院大	2		2
東京経大	9		9
東京工科大	7		7
東京工芸大	1		1
東京女子大	1		1
東京女子体育大	1		1
東京成徳大	4		4
東京電機大	5	1	6

大学名	現役	過年	計
東京都市大	4		4
東京農大	6		6
東京福祉大	3		3
東京未来大	2		2
東邦大	2	1	3
桐朋学園音楽大		1	1
東洋学園大	1		1
獨協大	26		26
日本映画大	2		2
日本社会事業大	6		6
日本獣医生命大	1	1	2
日本女子大	1	2	3
フェリス女大	1		1
文教大	10		10
文京学院大	13		13
武蔵野大	10		10
武蔵野音大	2		2
武蔵野美大	1		1
明海大	2	1	3
明星大	3	2	5
目白大	11		11
酪農学園大		2	2
立命館大		4	4
立正大	9		9
流通経大	6		6
麗澤大	5		5
和洋女子大	2		2
私立大学計	572	42	614

短期大学

合格者延べ人数			
短大名	現役	過年	計
青山学院女短大	3		3
大妻女大短大	3		3
聖徳大短大	1		1
創価女短大	2		2
東京家政大短大	1		1
新渡戸文化短大	1		1
日本大短大	1		1
立教女学院短大	1		1
短期大学計	13		13

現役の欄は平成24年3月に卒業した第64回生の実績です。過年の欄はそれ以前に卒業した者で、連絡のあったもののみ計上してあります。

伸び続ける墨田川高校
この3年間の進路先をみると、大学の割合は69・6％、75・2％、77・3％と上昇を続けています。また、進路未決定者の割合は15・8％、11・8％、11・2％と減少し続けています。1年からキャリア教育をはじめ、「現役で合格させる」指導の成果があらわれていると思われます。

一方、学校説明会・自校作成問題対策会などの人数も増加しており、本校への関心が高まっていることを示しています。それに伴い高校入試の倍率もこの3年間は、1・20倍、1・24倍、1・54倍と伸び続けており、出口・人口ともにこれから更なる成長を期待できるものになっています。

※指定校推薦出願者数 33名

◎国公立大学計3名
千葉大学 文学部
首都大学東京 健康福祉学部
首都大学東京 都市教養学部

◎私立大学計57名
慶応義塾大(2)・東京理科大(3)・中央大(2)・立教大・法政大(3)・学習院大・成蹊大(2)・武蔵大・明治学院大(2)・國学院大・日本大・専修大・東邦大(3)・武蔵野大(3)・順天堂大・国土館大(2)・東京都市大・東京農業大・独協大(2)・東京家政大(3)・学習院女子大・大妻女子大・女子栄養大・文教大・関西外語大・洗足学園大・東京工科大・東京福祉大・明治薬科大・玉川大(2)・桐蔭横浜大・関東学院大・聖徳大・東京国際大・杉野服飾大・東京家政学院大・共立女子大・跡見学園女子大・明星大・東京未来大

◎短期大学(計5名)
聖徳大短大(2)・創価女子短大・大妻女子短大・淑徳短大

これまでに指定校推薦、公募推薦、AO入試等で、次の大学・短大に合格者が出ています。大学入試センター試験(1月19日・20日)284名出願後、私立大学の一般入試、国公立大学の個別試験が始まりますので、合格者数はさらに増えていきます。カッコ内は複数合格者がいる学校の人数

平成24年12月時点での現3年次生第65期生の
主な進路状況

学校運営連絡協議会について



墨田川17回
清澤 健一

今年で12年目になる学校運営連絡協議会が開かれました。文科省の指導で、学校運営に関して外部の意見であるPTAや地元の意見を聞いて学校運営に活かしていくこととの目的で全国にて行われています。墨田川高校では、PTA、自治会、元校長、地元財界人、地元中学校長、OB、教育コンサルタントの委員と学校側からは、校長、副校長と教務、生徒指導、進路指導、総務の各部の主幹教諭から構成されています。

議題は授業視察の内容、それぞれの部が生徒、保護者、教員向けの学習や進路、生活指導に関するアンケートにより、生徒や先生とのギャップが把握できることや、遅刻や挨拶、服装等の検討を行いました。その中で課題の中心は進路に関することになりました。授業は先生が事前にプリントを用意し丁寧に進めています。その反面、先生と生徒のやり取りが少なく活気が無いという意見が出されました。現在の進路状況でG-MARCHつまり学習院、明治、青山、立教、中央、法政大学合格者が増えているので、もうひとふんばりすれば早、慶上、理及び国公立大学の大量合格にたどりつけるのではないかとという方向にまよりました。部活動では力を発揮しているので、ここで進学の実績をだせば全都から優秀な受験者が集まるのではとの予測です。とにかく、学校が元氣よく地元にも信頼され、一歩づつ前進するように頑張っています。

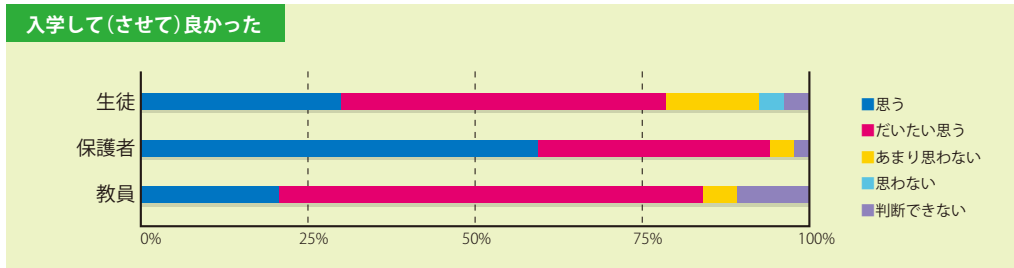
平成23年度東京都立墨田川高等学校教育活動点検アンケートまとめ

アンケート回収率：生徒 (99.1%)・保護者 (87.9%)・教員 (100%)

1 教育活動全般について

(1)入学して良かったかについて

生徒の74.4%が本校に入学して良かったと感じている。また、保護者の82.4%が入学させて良かった、教員の79.3%が良かったと三者ともに満足感を得ている。



(2)良かったと思うその理由について

生徒は、①学校行事が充実している(77.3%)②部活動が充実している(70.7%)③学校生活が充実し自分の将来のためになる(70.0%)と答えている。

保護者は、①学校行事が充実している(88.1%)②学校生活が充実し自分の将来のためになる(83.0%)③生活規律がしっかりしている(82.9%)と答えている。

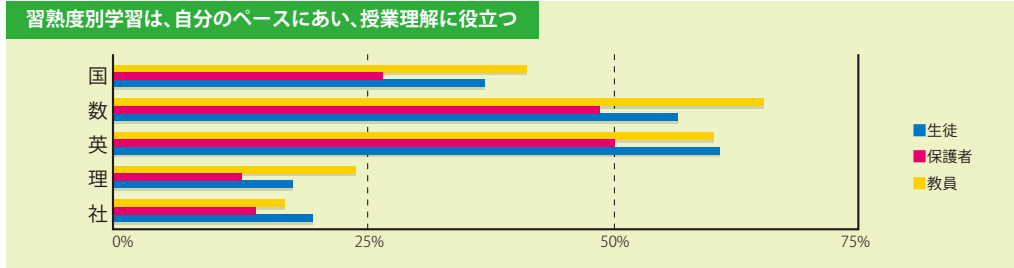
教員は、①学校行事が充実している(81.1%)②学校生活が充実し自分の将来のためになる(79.3%)③部活動が充実している(74.2%)と答えている。三者ともに、学校行事が充実していることが最も多い回答であった。

しかし、三者とも施設設備が充実しているとの回答が少なく、施設設備に対する充実を願っている。今後、生徒の不満内容等を明確にし、対応する必要があると考える。

2 学習指導について

習熟度別学習について

習熟度別学習は、生徒・保護者・教員ともに、英語・数学の授業において、「生徒の学習ペースにあい、授業理解に役立つ」との回答が多く、習熟度別学習の目的を達成している。



二寮について

楽水寮は現在網代さんという方に管理をお願いしています。網代さんは寮の近くで永年民宿を経営していた関係で、寮のお世話をしていただけの方としては、最適な方です。楽水寮は一年中利用する事が出来ます。七、八、九月は海水浴で他の期間は寮の前の海岸での釣や花摘み、イチゴ狩り、又ゴルフ等の宿泊所、休憩所として使用されています(七月下旬の一周間は七生寮同様墨田川高校の一年生が使用しているため利用出来ません)。料金は七八月は三千円、その他の月は一千円です。素泊。食事は寮で管理人さんに弁当を注文するか、各自で用意していただく事になります。又庭でバーベキューをする事も出来ます(バーベキューセット一台使用料五百円)し厨房を利用しての食事の用意も可能です。

お風呂は一度に十人以上入れる大浴場と四人位が入浴可能な小浴場がありどちらも利用出来ます。

七生寮は八月だけの利用になっています。七月下旬の一周間は、墨田川高校の一年生の四クラスが二泊三日の行程で使用しますので、その後の使用となります。今年は八月一日より二十五日までの予定です。七生寮の開寮中の管理は地元星野屋さんをお願いしています。開寮中の管理は七生会の人が行っています。食事は「えほし」という給食センターより取り寄せております。料金は素泊まりで三千円、朝食、夕食付きで五千円です。

入浴は、寮のすぐ近くの塩湯温泉(入浴料は千円)を利用するか、十分位歩いた所にある有名な星野屋のトンボの湯(入浴する際に墨田川高校と言ったくと通常料金の半額の十八時まで八百円、それ以後は千円)で利用する事が出来ます。

七生寮紀行

墨田川30回 山内 雅哉



1、8月19日、軽井沢・七生寮に一泊した。東京は猛暑だというのに別世界。木立に囲まれ、玄関を入ると奥に卓球台が見える。ここは昔のままだ。30年以上前、入学の年に来た時と変わらない。この寮が十数年前には存続の危機にあったことなど微塵も感じられない。

2、墨水会では、毎年この時期に役員を中心とした有志が寮に集まる。開寮期間の最終日に現状を確認したうえで戸締まりに行く。寮の存続のためだと説明するが、全員が揃うのは宴会。食堂では他の宿泊客も加わる。学生時代に教わった教諭と何度も遇った。容姿は変貌を遂げているが、口癖はそのままだ。お互い様だろうか。

3、東向島に足を運べばそれなりに当時を思い出すが、母校は近代的な校舎となり、周囲には高層の建築物が多くなった。これに比して、かつてのままの七生寮は特異で貴重な存在だ。学生時代を懐かしむのは現役をリタイアしてからかと思っていたが、その時期は予想より早く来てしまったようだ。

緑は、疲労回復に効く。そして、この寮には、ホテルや高級旅館のような設備はないが、七高生OBがリフレッシュできる元気の素がある気がする。皆さんも、寮に来てみませんか。

東京校歌祭について

東京校歌祭実行委員 墨田川17回 清澤 健一

平成24年度20回校歌祭は10月6日(土) 日比谷公会堂にて開催されました。今回は20周年を迎え、特別出演として東大、一橋大、の他に早稲田、慶応大学が参加し計21校が出演しました。

墨田川高校は、今回は90周年の祝賀会が3時頃まで行われるので最後から4番目の出演となりました。出演30分前までは、卒業生で慶応に出演する人とか、他の情報できましたという人など90周年行事に参加しなかった人が十数人集まっただけで少し心細くなっていましたが、祝賀会の中締めで校歌祭に出ましようとの司会者の勧めもあって70名近くの人が続々と参加してくれました。しかし、参加校が増えたこのことで進行を早めにしてしまった結果、墨田川高校の出演時間が10分早くなってしまいました。その結果、数名が舞台上がれず客席で歌うことになってしまいました。

今回は、マスコミにも働きかけ、NHKにて放映されました。10月段階でNHKにビデオがないかと問い合せたところ消してしまったと回答があり見ることはできませんでした。

来年21回開催については日比谷公会堂の修理が延期され会場を是非使ってほしいと連絡があり日比谷公会堂を使うことになりました。

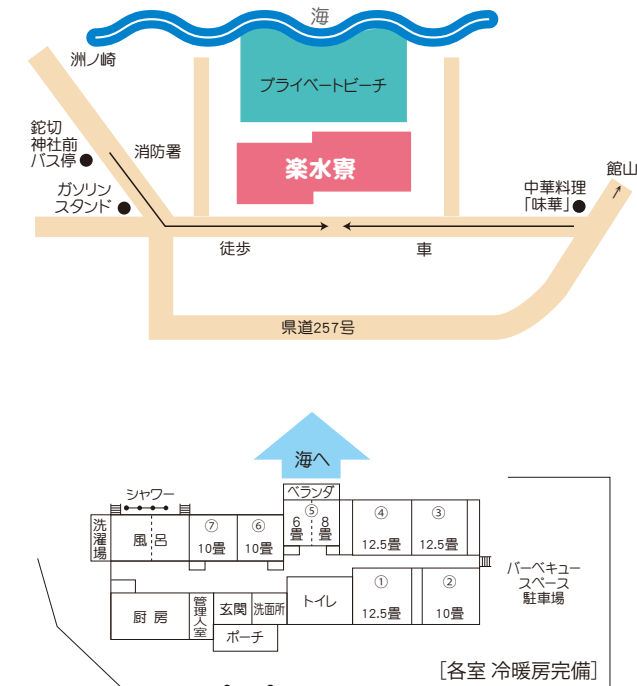
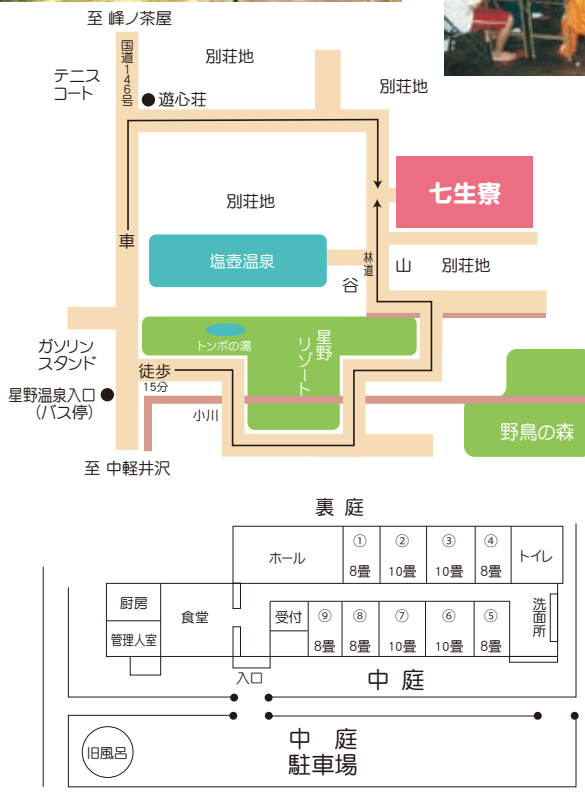
次回21回校歌祭は日比谷公会堂10月5日(土)に開催されます。



七生寮

楽水寮

房総館山



〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉字赤岩2148
電車 東京駅より新幹線あさま号で1時間35分
「軽井沢」駅下車、西武高原バス(草津温泉行)20分、
又は中軽井沢駅よりバス10分、
「星野温泉入口」より徒歩10分
自動車 国道146号峰の茶屋方面
城北信用金庫看板(遊心荘)手前右折1分

〒294-0303 千葉県館山市浜田160
電車 東京駅よりビューさざなみ号2時間13分
内房線「館山」駅下車、JRバスにて30分、
「鉦切神社前」より徒歩5分
バス 東京駅八重洲口より急行バス館山行1時間45分
自動車 バス通り(房総フラワーライン)洲崎方面
中華料理屋(味華)脇右折3分

利用期間 8月1日から8月25日まで
申込方法 6月1日より7月19日までは学校にて予約受付を行います。(7月20日より21日の間は受付をしません。)
学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)
7月22日以後の申し込みは直接寮へ
寮受付 ☎0267-45-5672
(一泊二食付き)
料金 大人(中学生以上) 5,000円
子供(小学生以下3才以上) 4,000円
素泊 大人 3,000円
子供 2,000円
休憩 1,000円

料金は業者も含め検討中です。変更になる事もあります。

利用期間 原則として通年で利用いただけます。
(7月24日より7月31日までは生徒利用のため除きます。)
申込方法 7月20日より8月31日までは
寮受付 ☎0470-29-0127 (管理人 網代)
その他の期間、及び6月1日より7月19日までの夏期予約は
学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)
料金 素泊
7・8月 大人 3,000円(中学生以上)
子供 2,000円(小学生以下3才以上)
休憩 2,000円(風呂代含む)
7・8月以外 大人 2,000円
子供 1,000円
休憩 1,000円(風呂代含む)

食事については、寮で注文してください。(お弁当・刺身の舟盛等)尚、庭にてバーベキューを行う事が出来ます。(バーベキューセット使用料1台500円)又、厨房も利用出来ます。(使用料1日500円)

学校は「芋洗い桶」か。

七中18回 中島 藤五

「母校」だとか「学校が懐かしい」とか言う言葉を聞くが、「学校」とは何んだろ。学校の校舎だろうか、学校を含めた周辺の景色、町の空気だろうか、教師達の顔、挙措だろうか、友達とのあれこれだろうか。

近頃は見掛けないが昔は八百屋の店先によく置いてあった「芋洗い桶」、径と深さが夫々50センチメートル程の木の桶でX字に結んだ2本の丸太が突っ込んである。水と里芋を入れ丸太の頭を掴んでゴロゴロ掻き混ぜれば芋の皮がむけて綺麗になる仕掛。

丸太ん棒が教師で、芋の子たる生徒は掻き回されぶつかり合って磨かれる。丸太ん棒に当って磨かれるのもあるだろうが、芋の子どうして磨かれる事のほうが多いのではないか。桶にタガはかかっているが桶の形を保ち水漏れを防ぐ為で、棒も芋も縛られてはいない。

考えれば、教師から受けたものもあるけれど、より多くの影響を友人から受けている。上級学校へ進み新しい友人と出会うと出身中学校によって気風が違う事に驚く、校風というのだろうか。その後の半世紀を越える人生を振り返ってみると物事の処理に、対人関係に、5年間の芋洗い桶の影響が色濃い。

芋のとれた畑といえば、戦争前の向島、本所、深川、城東を埋めたメリヤス、ゴム、プレス、染色等々の町工場。大小の煙突が林立し、建物は勿論僅かばかりの庭木も煤けている町中の八百屋、酒屋、ハンコ屋、洋服屋、靴屋。こんな工場やお店の主人、それに町医者・教師の倅。親父は新潟や福島や茨城から働きに出てきて独立した人達。

私の育ったのは葛飾の純農村で古い町、大部分は代々土着、それ以外の人は僅かで、3代経っても余所者扱、「越後の○○です」「栃

木の○○さん」と呼ぶ土地柄だったので、七中の友達がみんな田舎というものを持ってるのが物珍しかった。

今や工場は消えてマンション群に、八百屋、酒屋はコンビニやスーパーに。畑が変われば採れる芋も変わる理屈で、学校の生徒の氣質が変わるのは当然の事。それでも学校の役割は同じ「芋洗い桶」、教師は「X字の丸太ん棒」。

海苔巻きを作る「すだれ」は海苔と飯と具をならべて丸めてぎゅーっと抑え、調理人の好みで丸か四角の棒に仕上げ、ちょんちょんと切って「丁上がり」。

『教育に関わる人達には、学校を「すだれ」と思い違いをしてもらいたくない』と墨田川高校創立90周年祝賀会で挨拶を聞きながら考える。

教育制度の改革を望む

墨田川4回 小林 英治

戦後、日本を占領した連合軍総司令部(GHQ)は、大きく分けて3つの改革を断行した。当時、日本国民には、どの改革も青天の霹靂であった。

- 1.軍部を資金面で支援した財閥の解体
- 2.小作人の解放(耕作していた大地主の土地を安い対価で取得した)
- 3.教育制度の改革(男女共学、6・3・3制の導入)

金融機関は三井、三菱、安田、住友などの財閥名を商号に使用することを禁じられたので、一時、三菱銀行は商号を千代田銀行に改めた。三井物産は153社に分割解体された。

しかし、昭和26年4月にサンフランシスコ講和条約が発効すると、財界の反応は早かった。千代田銀行は速やかに三菱銀行に戻ったし、三井物産は合併に合併を重ねて

昭和30年には、ほぼ戦前の三井物産に復した。ところが教育の世界はGHQの命令に服したまま今日に至っている。

教育改革は、話題になったときから、不評であった。

戦争とは関係のない教育制度を根本から変えるなんて余計なお節介だった。しかし、無条件降伏の悲しさ、GHQの命令に従わざるを得なかったのである。

中学校、高等学校を3年制にすると、入学したらすぐ上の学校の受験勉強を始めなければならぬ。これでは6年間精神的な圧迫を受けっ放しで、学問を通じて人格の陶冶をはかるという教育の本来の目的を達成できなくなる。

その点、明治の教育者、森有礼、下田歌子らの創設した5年制の中学校、高等女学校は今、文科省が改革に着手したゆとりある教育、そのものであったし、男子は男らしく、女子は女らしく別々に育成する教育理念は素晴らしい。教育者はこの状態を供手傍観してはならない。

日本の教育は「男女7歳にして席を同じうせず」が原点なのである。男女共学は徹底しているかというところでない。都内の公立高校はすべて男女共学のものであるが、埼玉県は浦和高、浦和第一女子、高川越、高川越女子高は男女共学ではない。

中学、高校時代は多感な時期であるから、男女共学を廃止する方が実益が多いと思う。教育の実践面の話に転じたい。教育の原点は言葉の使い方にある。戦前は生徒が実社会へ出てから人前で恥をかかないような実践的教育に力を入れた。

教育の原点は言葉の使い方にある。戦前は生徒が実社会へ出てから人前で恥をかかないような実践的教育に力を入れた。

ほんとに素晴らしい同期会ではありませんか。坂本幹事さんに伺うと、芸者さんは向島の花街から毎回呼んでいて、馴染の奇麗どころだそうです。二度吃驚です。大先輩を見習うべし。

芸者さんのお座敷を楽しんでいる内に時間も経過し、賑やかな宴も午後九時頃お開きとなりました。

当日は多くの先輩から色々貴重な話を伺うことが出来ましたが、その中で日本医科大学名誉教授の恵畑欣一先生からは、近年母校から日本医大に受験する生徒が皆無であるから今後は毎年是非受験するように生徒諸君に呼び掛けて貰いたいのご依頼がありました。

確にかつての向島の病院や医院の先生方は内科、外科、眼科、歯科を問わず、そのほとんどが母校OBの先生で占められていた時代がありました。

恵畑名誉教授のお話は、現在の母校にとっては少々厳しいご意見であるかと拝聴しました。

そんな訳で楽しい二時間を大先輩と一緒に楽しく過ごした様子をご報告致します。

写真は当日の会場の様子(筆者撮影)



七生会会員 物故者追悼法要を営む

大木 善夫

平成二十四年九月二十三日午前十時、東武線草加駅より、私共を乗せた寺差し向けのマ

私は本校で名声の高かった中島馨先生に中学、高校の6年間国語を教わった。今でも授業の「コマ」「コマを走馬灯のように思い出す」。

先生は授業の中で何かのきっかけがあると授業をやめて世俗的な言葉の誤りを指摘した。街中でおばさんたちは、「料理はともおいしかったです。」と話しているがこの日本語は正しくない。「おいしかった」で文章は終わっているのだから、それに「です」を加えるのは誤りだ。

「とてもおいしい料理でした」と一つのセンテンスで終わるように話さない、と教えた。強く印象に残っているのは、先生が助教詞の数え方を生徒に尋ねたことである。烏賊、ウサギ、鏡、刀、筆筒の数え方は皆さん正しく答えたが、山と鳥居の数え方は13歳の少年には難問でした。答えは座と基であることを教えて下さった。中島先生の教えは私の後々の人生に裨益することが多かった。

最近は大人の日本語が乱れている。10数年前のことだが、時の総理大臣は、減税と言えば耳障りのいい話だ」と述べた。こんな日本語がありますか?「減税と言えば、聞こえのいい話だ」が正しい日本語だろう。○×試験の弊害は実に根の深いものである。

「一斑を見て全貌をト(ぼく)する」という諺がある。この一言を聞いて頭脳の中を推察できる。福島原子炉が津波で損壊したとき、テレビに出演していた東大教授、京大教授は今、×号原子炉で放射能が飛散した可能性が高い」と話していた。私は中学2年のとき「可能」は漢字の世界では「能く可べし」と読み、結果の良い事柄に用いる言葉であると習った。実に情けない学者たちだ。

「放射能が飛散した模様である。」または「放射能が飛散したと推察する。」のように話すべきだろう。

次に文科省が行う能力検定試験および都道府県が行う公立高校の国語の入試問題の

イクロバスは、程なく八潮市中央に在る正法山威徳院観音寺に到達しました。寺の住職は同期生の傳燈大阿闍梨・大僧正杉村良哉師であります。

当日は秋の彼岸の四日目、七中卒業以来会で把握している物故者百五柱の追悼法要を営む為、物故者の遺族六名と会員十二名がここ観音寺に参列しました。当初会員物故者追悼法要は、平成三年四月七日物故者二十四柱の霊を慰めるため、杉村大僧正のご好意により遺族三名と役員同志十四名の参加で始まりました。七生会会員物故者の霊は、今後ともこの観音寺でお守りして下さいとの、ありがたい住職のお言葉に甘え、爾来三年に一度の追悼供養を営み、今回で第八回となりました。

定刻午前十一時、一同本堂に入る。大僧正のみしか着衣を許されない朱の法衣をまとった導師杉村大僧正が厳かに入室する。

まず法話、本堂に前回まで供えられていた三基の位牌(一基二十三名の俗名が裏面に命日順に刻まれていた)は何処にも見当たらない。代わりに住職が自費で作成した巨大な位牌(台座の幅16cm高さ47.5cm)正面に「校章マーク 昭和二十年卒東京府立第七中学校第二千回生/七生会物故者之各霊位」と刻まれた位牌が、この寺の本尊である十一面観世音菩薩像の前に安置されてあった。「従来の位牌では五基六基、となり壇が一杯になるので除魂して新しく作成した」と導師の説明があり、直ちに導師の莊重な説経が始まる。導師表白では物故者百五柱全員の俗名を命日順に一人一人に呼びかけがあり、導師の読経の続く中、参列者全員が焼香し、彼岸の物故者の冥福をお祈りし一時間強の読経も終わり、記念写真撮影法要は終了しました。

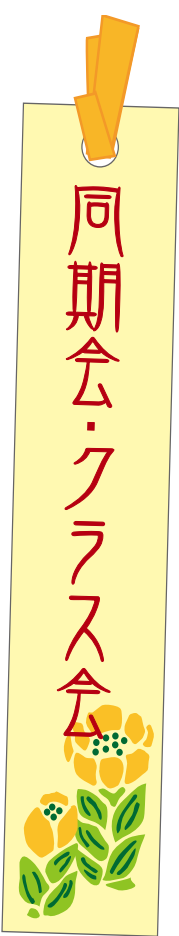
全員庫裡に移りお斎に入る。住職の挨拶のあと六名の遺族紹介も終わり献盃になる。今日の法要に体調不良の為参加出来なかった一人の会員が、製造元より取り寄せた銘酒「同

墨水会だより 記念号 (第20号)

ことで皆さんに尋ねたい。設問文に「答を20字以上、30字以内で書け」と書いてある。この日本語正しいと思いますか。

「答を30字以内で書け」は正しい。しかし、1つのセンテンスの中に「以上」を使っている場合は「以内」を使うことはできない。これは文章の世界の掟である。刑法の条文は「一年以上10年以下の懲役に処す」と書いてある。辞書を調べると、「以内」は「以外」の反意語と書いてある。「以上」の反意語は「以下」と書いてある。

俗な話だが節分の豆まきでも「鬼は外、福は内」のように「内」は「外」と一対をなす言葉



七中18回 同期会 探訪 常任幹事 坂本義雄・毛利英三 両氏の期

井上 常一(高3)

昨年惜しくも亡くなられた副会長の松本重雄先生が卒業された七中十八期の皆様は、齢八十八歳となられた現在も、大変元気に毎年同期会を百花園のお成り座敷を借切って開催されています。

昨年も年末の十二月八日に、二十四年度の同期会が開催されました。常任幹事会の席で幹事の毛利さんから、私にも出席してみないかとお誘いがありましたので、大先輩のクラス会に初めて出席させて頂きました。

当日私は所用があり六時の開会に遅れたところ、早速携帯にお叱りの電話を戴き、慌てて百花園の会場に駆け付けまし

た。玄関を上がり、お成り座敷一杯に陣取った会員諸氏が、若者のごとく盃を上げ元気に談笑される姿に、まず吃驚しました。常任幹事である坂本、毛利の両氏は長年墨水会の活動にご支援、ご協力を戴き、毎回の幹事会にも必ず出席され、貴重なご意見を戴いております。幹事のご両人はとても温厚な先輩であり、そのイメージから想像すると会は静な雰囲気に移しているものと私の勝手な想像でしたが、見事にその想いがはずれたのです。

日本間の会場には和服姿も美しい、四人の奇麗な芸者さんの姿もあり、なんとも艶やかで粹な三昧の音も響く、賑やかな宴であることか!

末席に入り込んだ私は久し振りに素晴らしい宴席の虜になりました。

昭和38年卒のG組は数学の和田古佐衛門先生の指導を3年間受けたクラスです。先生がご逝去されてから、3回目のクラス会を2年振りに平成24年11月10日、向島百花園のお成り座敷にて開催しました。

参加者は16名でしたが、この2年間に仲間が2名鬼籍に入られ、会の始めに皆で合掌。その後、先生の話やら、学生時代の勉強・クラブ活動の話やら、その後の仕事の話題、現役引退後の生活から、孫の話まで多岐にわたり、話は大いに盛り上がり、アツという間

墨田川15回
昭和38年卒
G組クラス会
広瀬 利雄

また日の高いうちに、自宅に着いたが、しみじみと夏の軽井沢の過ごしやすさを想った。

翌日は、半数が連泊するというので、軽井沢周辺、白糸の滝までドライブする事になった。皆、車で来ているので、私は小諸の「懐古園」まで一緒させてもらった。昼前に皆と別れ、「しなの鉄道」で軽井沢駅まで戻り、新幹線で上野へ帰った。

寮の運営は、墨水会幹事のボランティアで一週間、あるいは二週間交代で世話をしてくれている。ありがたい事である。

皆、よく飲み、かつ話がつきなかった。飲んで寝るだけというのは実に気分が大らかになり、楽しいものだった。私は一番多く飲み酔って先に寝てしまったが、語らひは深夜まで続いたようだ。

寮の運営は、墨水会幹事のボランティアで一週間、あるいは二週間交代で世話をしてくれている。ありがたい事である。

7生会とは、昭和19年卒の金子博道会長および昭和21年卒の白田守夫副会長が長年にわたって率いてきた歴史あるOB・OG会です。2012年2月に、金子会長が逝去され、白田副会長は体調が万全ではないというところで、その後任の会長を選任すべく6年ぶりに「七生会の集い2012」を開催しました。現在、生物部のOB・OG会員数は存命者だけでも500名近くにおよぶ大所帯となっています。時には生物部員数が1〜2名という絶滅危惧状態になったこ

七生会
七高・墨田川高校生物部OB・OG会
「七生会」の集い2012開催
屋代 雅充(墨田川23回)

また場所が学校に近かったので、終了後、学校を訪ね、サッカー部や剣道部の部活も見学できました。

次回は是非軽井沢の七生寮でやろうとの全員の合意を得て、散会しました。たいへん楽しく、是非また会いましょうとの期待を抱かせたクラス会でした。



ともあり、その時どきの顧問の先生方のご尽力によって、現在まで絶滅を免れ、現在に至っています。

今回は、会長および役員の若返りを図るとともに、久しぶりに生物部OB・OG会員が旧交を温めることができるように、全会員宛に往復はがきで連絡するとともに、現役の高校生にも参加を呼びかけました。2012年11月17日(土)の夕方、上野御徒町界隈の中華料理店に会場を設け、雨天にもかかわらず白田氏を筆頭にOB・OGが42名、顧問および元顧問の先生方が3名、現役高校生8名という顔ぶれが集まりました。新会長には昭和32年卒の山田隆弘氏が就任し、4名の副会長も決まりました。

役員選任の後、懇親パーティが開かれ乾杯の挨拶に続いて、現在の墨田川高校の様子や生物部の活動状況および部員の紹介があり、さらに生物部ならではのクイズと景品で盛り上がりしました。パソコンを持ち込んで昔の写真をディスプレイに映し出した後、久しぶりに会うことのできた方々が随所で旧交を温めているうちに、あっという間に3時間が過ぎました。最後に校歌を斉唱し、名残を惜しみながら散会しました。

今回の会合準備では何度も準備会を開き、往復はがきを使うために住所確認や印刷などで多くのメンバーの手を煩わせました。今後は次第にメールが主流になっていくと思われまますので、これをご覧になられたOB・OGの方々へ、yashirona846@gmail.com宛にご連絡ください。

墨田川7回
昭和三十年卒
D組クラス会
横山 松雄

平成二十四年の「昭和三十年卒D組クラス会」は、八月二日・三日に軽井沢七生寮で開催し、約六十年振りの懐かしさを満喫する会となりました。

当日昼頃、七生寮に現地集合し、除草・風倒木撤去作業等で汗を流しましたが、山梨県在住の茅沼君がチェンソー・除草機を持ち込んでくれたため、思いがけない作業の進捗をみました。

作業後の近隣塩壺温泉入浴で疲れた身体を癒し、夕方から懇親会になりましたが、夜の更けるのも忘れ懐旧談に花を咲かせました。

翌朝の野鳥の森・旧軽井沢市街の散策で解散しましたが、良い思い出を共有することが出来ました。

十一月二十九日には恒例の浅草神谷バード再度クラス会を開催し、軽井沢の思い出と次回のクラス会開催方針を決めて散会しました。



今から約1年前のことだった。facebookで知り合った墨田川高校の先輩と実際に会うことになった。

佐藤先輩(1975年卒。私の2年先輩だが、面識はなかった)である。

その後、何度か面談するうちに、墨田川高校のOBを集めて何かやってみようとなり、七高交流会なるものが出来上がった。

親睦は大事だけれど、親睦だけではもの足りない。商売・ビジネスを中心にすることに。

七高会・ビジネス交流会は墨田川高校OB相互の情報交換、技量補完、人的交流をはかるのを目的とし第1回は2月22日に行われ、その後隔月で墨田区の東駒形3丁目町会会館で開催している。

どんな内容かというと参加者の自己紹介中心のプレゼン、この会に参加したきっかけや考えを含む意見交換。ときに商店会振興にうれしい中小企業診断士を招いての講義。しかも墨田川OB人脈により格安の講演料。

おもな参加者は上が60歳代から下は30歳代の男女。

その職種は経営者・自営業を中心に、IT・物流・生保・損保・医薬・SE・税理士・印刷・経理・イラストレーター・アナウンサー・FP(ファイナンシャル・プランナー)など。

もちろん地元の人気店「もつ焼き稲垣本店」での懇親会も欠かせない。交流会参加希望者は、佐藤彦彦08051713131 か小塚雄司060626107762まで連絡をください。

墨田川29回
七高会・ビジネス交流会を開催
小塚 雄司

八月二十五日、午後一時前、東京発の長野新幹線あさま八号に乗るべく、上野駅の「みどりの窓口」に切符を示したが、既に指定席は完売で、自由席にしか乗車できないと言われた。止むなく自由席車両に乗り込み一座席を確保した。車両販売のコーヒーを飲みつつ文庫本を読んでいると二時間余りで軽井沢駅に到着。一分の待ち合せて「しなの鉄道」に乗り替え、中軽井沢駅で下車した。中軽井沢駅前は人も少なく、昼下りの直射日光にあたりと汗が吹きだすほど酷い暑さである。

クラス会世話人の竹鼻さんの携帯に連絡して迎えに来てもらう。この時期、天皇が軽井沢に滞在申とかで、道路のあちこちで検問やら通行止めがあり、駅から数百メートルの距離から二〇分もかかって竹鼻さんの車が到着。中軽井沢駅から数キロメートルの「七生寮」へ向う。

七高生の頃は館山の「楽水寮」へ行ったので「七生寮」に来たのは初めてである。静かな林の中に涼しげに佇む姿は、高原の風情を漂わせて優美であった。

前回のクラス会で、偶には泊りがけでのクラス会をしようという声があり、世話人の尽力で「七生寮」で行なう事



七中23回
七高1回
同期会(昭和23・24年卒)
海谷 利宏



第37回総会(平成24年5月26日・もちづき・早川幸男撮影)

恒例の同期会は、今年も向島百花園で6月8日の新緑の季節に開催され、14名が参加した。

平成12年5月に卒業50周年記念同期会を開催したときは、36名の参加者があった。これからもこじんまりながら、同期会を継続していけそうである。

同期には、昭和史研究者の半藤一利氏や旅行作家の山本鉤太郎氏など多彩であるが、両氏とも被災疎開者である。私は高1卒の1人である。

多くの生徒はこの時期に巣立ち、旧制高校や大学予科などに進学した。旧制中学と新制高校の切り替え時期の昭和23年に、約80名2クラスが高校3年生として残り、翌24年3月に7高第1回卒業生として巣立っていった。そのため同期会は昭和23年卒と翌年高1卒の2期に亘っている。昭和25年には、校名が都立墨田川高校となり、今日創立90周年を迎えている。

昭和18年に府立7中に入學した。生徒数約300名、6クラスであった。戦時中の疎開者や昭和20年3月10日と5月25日の本校舎が焼失した大空襲で、やむなく東京を離れた者等で生徒数は激減した。戦後帰校者があり、旧制都立7中5年(現在の高校2年)卒業時の昭和23年の生徒数は約220名となった。



八月二十五日、午後一時前、東京発の長野新幹線あさま八号に乗るべく、上野駅の「みどりの窓口」に切符を示したが、既に指定席は完売で、自由席にしか乗車できないと言われた。止むなく自由席車両に乗り込み一座席を確保した。車両販売のコーヒーを飲みつつ文庫本を読んでいると二時間余りで軽井沢駅に到着。一分の待ち合せて「しなの鉄道」に乗り替え、中軽井沢駅で下車した。中軽井沢駅前は人も少なく、昼下りの直射日光にあたりと汗が吹きだすほど酷い暑さである。

クラス会世話人の竹鼻さんの携帯に連絡して迎えに来てもらう。この時期、天皇が軽井沢に滞在申とかで、道路のあちこちで検問やら通行止めがあり、駅から数百メートルの距離から二〇分もかかって竹鼻さんの車が到着。中軽井沢駅から数キロメートルの「七生寮」へ向う。

七高生の頃は館山の「楽水寮」へ行ったので「七生寮」に来たのは初めてである。静かな林の中に涼しげに佇む姿は、高原の風情を漂わせて優美であった。

前回のクラス会で、偶には泊りがけでのクラス会をしようという声があり、世話人の尽力で「七生寮」で行なう事



期の桜」にて一同献盃。料理は精進料理に程遠い住職つくしの豪華な食事で懇談。

七中時代のこと、何時尽きるか知れない旧友達を偲ぶ思い出話で時間の経過を忘れて午後二時三十分、全員校歌斉唱。また三年後に来るからね」本堂に心でとなえながら別れを惜しんで帰路につきました。

かくして追悼供養一日の行事は終わりました。

七中二十期生は、晝夜勤の勤労動員・戦災・終戦と苦楽を共に過ごし、バラバラな卒業、別れと特異な中学時代を過ごし、漸く三十年後に七生会を結成し、現在会員同士が深い絆で友情を大事にしており、今回の行事もこの杉村大僧正、協力する大勢の同期生が居たからこそ成し得たものであろうと、実感しております。

「持つべきものは、良い友である」

た。5年ほど前から、例年この時期に同一場所で開催している。出席者がほぼ同じ顔ぶれであるが、中学・高校時代の波乱に満ちた青春時代から高度成長期、円熟期と時代を重ねて傘寿を迎えた我々であるから、喜怒哀楽、思い出が尽き無い。お互いに健康に感謝し、相応の体調をねぎらい、思い出を作っている。

昭和18年に府立7中に入學した。生徒数約300名、6クラスであった。戦時中の疎開者や昭和20年3月10日と5月25日の本校舎が焼失した大空襲で、やむなく東京を離れた者等で生徒数は激減した。戦後帰校者があり、旧制都立7中5年(現在の高校2年)卒業時の昭和23年の生徒数は約220名となった。

平成二十四年の「昭和三十年卒D組クラス会」は、八月二日・三日に軽井沢七生寮で開催し、約六十年振りの懐かしさを満喫する会となりました。

当日昼頃、七生寮に現地集合し、除草・風倒木撤去作業等で汗を流しましたが、山梨県在住の茅沼君がチェンソー・除草機を持ち込んでくれたため、思いがけない作業の進捗をみました。

作業後の近隣塩壺温泉入浴で疲れた身体を癒し、夕方から懇親会になりましたが、夜の更けるのも忘れ懐旧談に花を咲かせました。

翌朝の野鳥の森・旧軽井沢市街の散策で解散しましたが、良い思い出を共有することが出来ました。

十一月二十九日には恒例の浅草神谷バード再度クラス会を開催し、軽井沢の思い出と次回のクラス会開催方針を決めて散会しました。

八月二十五日、午後一時前、東京発の長野新幹線あさま八号に乗るべく、上野駅の「みどりの窓口」に切符を示したが、既に指定席は完売で、自由席にしか乗車できないと言われた。止むなく自由席車両に乗り込み一座席を確保した。車両販売のコーヒーを飲みつつ文庫本を読んでいると二時間余りで軽井沢駅に到着。一分の待ち合せて「しなの鉄道」に乗り替え、中軽井沢駅で下車した。中軽井沢駅前は人も少なく、昼下りの直射日光にあたりと汗が吹きだすほど酷い暑さである。

クラス会世話人の竹鼻さんの携帯に連絡して迎えに来てもらう。この時期、天皇が軽井沢に滞在申とかで、道路のあちこちで検問やら通行止めがあり、駅から数百メートルの距離から二〇分もかかって竹鼻さんの車が到着。中軽井沢駅から数キロメートルの「七生寮」へ向う。

七高生の頃は館山の「楽水寮」へ行ったので「七生寮」に来たのは初めてである。静かな林の中に涼しげに佇む姿は、高原の風情を漂わせて優美であった。

前回のクラス会で、偶には泊りがけでのクラス会をしようという声があり、世話人の尽力で「七生寮」で行なう事

墨田川15回
一泊C組のクラス会
(七生寮にて)
櫻村 志郎

男子400mメドレーリレー	26位 (大月、上村、千田、橘)
○女子50m自由形	9位 布施谷結花
○女子100m自由形	9位 布施谷結花
○女子400m自由形	2位 上田桜子
○女子200m個人メドレー	9位 布施谷唯
○女子400m個人メドレー	2位 上田桜子
○ //	9位 布施谷唯
○女子400mフリーリレー	9位 (上田、布施谷結、勝治、布施谷唯)
○女子400mメドレーリレー	16位 (布施谷結、布施谷唯、中村、上田)
○印はインターハイ出場権獲得	女子8 (個人6、リレー 2)

インターハイ 8月17日~20日	長岡ダイエプロビスフェニックスプール
女子50m自由形	24位 布施谷結花
女子100m自由形	38位 布施谷結花
女子400m自由形	34位 上田桜子
女子200m個人メドレー	44位 布施谷唯
女子400m個人メドレー	9位 上田桜子
○ //	55位 布施谷唯
女子400mフリーリレー	21位 (布施谷結、上田、勝治、布施谷唯)
女子400mメドレーリレー	38位 (布施谷結、布施谷唯、中村、上田)

国民体育大会 9月15日~17日	長良川スイミングプラザ
布施谷結花、上田桜子が東京都代表として出場	
少年A女子400m個人メドレー	10位 上田桜子
少年A女子400mフリーリレー	2位 第1泳者 布施谷結花

新人戦 9月22日、23日	辰巳国際水泳場
男子50m自由形	6位 中島輝
男子400m自由形	5位 小野航太郎
女子100m自由形	2位 布施谷結花
○ //	8位 佐藤七菜
女子400m自由形	7位 勝治菜々
女子50mバタフライ	4位 長倉夏実
女子100mバタフライ	8位 中村綾花
女子200m個人メドレー	1位 上田桜子
女子400mフリーリレー	3位 (上田、勝治、佐藤、布施谷)
女子200mメドレーリレー	4位 (長倉、上田、中村、布施谷)
女子総合4位	

その他	上田桜子がジュニア・パンパシフィック水泳競技大会 (2012Jr Pan Pacific Swimming Championships) 8月23日 ~ 27日ハワイ の日本代表に選ばれ、女子オープンウォーター 10km、女子400m個人メドレーなどに出場し活躍しました。
-----	--

平成24年度 ボート部成績

インターハイ都予選6月17日(日)	
女子シングルスカル 2年亀井恵利沙 優勝	
女子ダブルスカル 3年滝澤百夏・窪田鞠衣 優勝	
女子シングルスカル、ダブルスカル共に北信越輝き総体出場決定	

国民体育大会関東ブロック大会 7月21日(土) ~ 22日(日)	
女子ダブルスカル 3年滝澤百夏・2年亀井恵利沙 3位	

北信越かがやき総体 8月2日(木) ~ 4日(日)	
女子シングルスカル 亀井恵利沙2年 準々決勝5位	
女子ダブルスカル 窪田鞠衣・滝澤百夏3年 準々決勝3位	
○ 予選 1位	
○ 準々決勝 3位	

関東高等学校選抜競漕大会東京都予選会 10月21日(日)	
女子シングルスカル 亀井恵利沙2年 2位	
関東高等学校選抜競漕大会進出	
女子ダブルスカル 篠原仙実・飯塚祐美2年 3位	

関東高等学校選抜競漕大会 11月3日(土) ~ 4日(日)	
女子シングルスカル 亀井恵利沙2年 決勝3位	
全国高等学校選抜ボート大会出場決定	

生物部
東京アースワーカーズコレクション 特別賞受賞
JST (科学技術振興機構)ポスター発表

英語部
絵本翻訳コンクール出場・スピーチコンテスト出場

物理・化学部
文化祭にて「文化の香り賞」

美術部
東京都高等学校文化祭 美術・工芸部門 第23回中央展出品
TOKYO KOEDO展出品

吹奏楽部
東京都高等学校吹奏楽コンクール金賞・東京都吹奏楽コンクール出場
管楽合奏コンテスト全国大会優秀賞・ヤマハ賞
ジャズ&ポップスコンテスト全国大会
TAMAアンサンブルコンテスト金賞・審査員特別賞
東京都高等学校吹奏楽連盟アンサンブルコンテスト
金管八重奏金賞・木管八重奏金賞

邦楽部
葛飾シンフォニーヒルズお弾き初会 出場

フォークソング部
学校見学・文化祭等にライブ参加

華道部・文芸部・漫画部
文化祭にて参加

水泳部 2012年度 戦績まとめ

高体連 得点の入る8位以上	
春季大会 6月9日、10日 辰巳国際水泳場	
男子400mフリーリレー	7位 (橘、岩澤、篠崎、中島)
男子400mメドレーリレー	8位 (中島、名地実、千田、橘)
女子50m自由形	2位 布施谷結花
女子100m自由形	8位 佐藤七菜
女子200m自由形	4位 勝治菜々
女子400m自由形	3位 上田桜子
女子200m個人メドレー	2位 布施谷唯
女子400mフリーリレー	4位 (布施谷結、布施谷唯、勝治、上田)
女子400mメドレーリレー	5位 (布施谷結、布施谷唯、中村、上田)
女子総合 4位	

都大会 6月23日、24日 辰巳国際水泳場	
男子50m自由形	2位 橘信基
男子100m自由形	4位 橘信基
男子400mフリーリレー	6位 (橘、岩澤、小野、中島)
男子800mフリーリレー	7位 (小野、岩澤、篠崎、橘)
男子400mメドレーリレ	8位 (大月、上村、千田、橘)
男子総合7位	
女子50m自由形	3位 布施谷結花
女子100m自由形	2位 布施谷結花
女子400m自由形	1位 上田桜子
女子200m個人メドレー	3位 布施谷唯
女子400m個人メドレー	1位 上田桜子
○ //	6位 布施谷唯
女子400mフリーリレー	4位 (勝治、布施谷唯、上田、布施谷結)
女子400mメドレーリレー	5位 (布施谷結、布施谷唯、中村、上田)
女子総合5位	
男子5 (個人2、リレー 3)、女子8 (個人6、リレー 2) 関東大会出場権獲得	

関東大会 7月24日~26日 前橋敷島公園水泳場	
男子50m自由形	12位 橘信基
男子100m自由形	21位 橘信基
男子400mフリーリレー	24位 (橘、岩澤、小野、中島)
男子800mフリーリレー	29位 (小野、岩澤、篠崎、橘)

平成24年度 部活動活動状況	墨田川23回 生徒指導部 百瀬 健一
--------------------------	------------------------------------

平成24年度、各部の部員の活動は「文武不岐」のもと、特に創立90周年の意気も高く、時間場所を取り合い、協力し、それぞれの目的を持ち、学校生活をより豊かにするために有意義に活動していました。

部活動数は、運動部19部、文化部20部 (同好会2部) の計39部です。

10年前14年度は、運動部17部・文化部20部 (同好会4部) 計37部でした。

この10年間の、部員数の推移は社会と高校教育の変化にも影響されず、多少の波はありましたが、数の上でも活動状況においても、「七高魂」が生き続けています。

この10年の間、特に後半においては、19年度から入学者選抜における文化・スポーツ特別推薦制度を導入し、軟式野球部・女子バレーボール部・吹奏楽部で実施しました。

その後、水泳部・サッカー部・剣道部も実施し、学校活性化の力となりました。

また、平成20年度から23年度の4年間、部活動推進の指定校にも選ばれました。

新入生全員に部活動に所属させる方針も立て、進学校としてのケジメある内容の濃い活動ができるような体制に改善しつつあるところです。

どの部活も、実績を出し活躍している部を刺激にし、毎日元気に活動しています。

今後、部活動だけでなく諸行事も、教員と生徒の協力を礎に、生徒諸君の企画運営力が高まることを望み祈ります。このことが何よりも、「七高生」「七高」の明るい発展への鍵となることでしょう。

平成24年度 部活動 成績
〈運動部〉
卓球部
関東大会予選 団体の部 ベスト32
インターハイ予選 団体の部 ベスト32
国公立大会 シングルス ベスト16 ベスト64
女子秋季大会兼全日本ジュニア予選会Bクラス優勝
女子バスケット部
59年カップ 3回戦 進出 春季大会2回戦 進出
インターハイ予選 1回戦 出場 夏季大会1回戦 出場
新人戦 2回戦 進出
男子バスケット部
新人戦3回戦進出
女子バレーボール部
春季リーグ戦優勝 関東大会予選 ベスト64
新人リーグ選手権大会Ⅰ部大会 ベスト64 墨田区大会4連覇中
サッカー部
インターハイ 支部大会 優勝 都大会 2回選進出 ベスト36
選手権大会 地区大会 優勝 都大会 ベスト16
陸上部
三段跳び 女子 都大会出場・都大会入賞
3000m男子都大会出場 5000m男子都大会出場
剣道部
東京都高等学校春季剣道大会兼関東大会団体東京都予選
男子団体ベスト32・女子団体ベスト32・男子個人ベスト16 (屋宮慶之)
東京都秋季都大会 男子団体ベスト16
墨東杯争奪剣道大会 男子総合 優勝 女子総合 準優勝
一年男子の部 3位 (千 世賢)
二年男子の部 優勝 (池田光希) 3位 (山洞拓哉)
一年女子の部 優勝 (土屋涼香) 準優勝 (北村紗貴)
東京都高体連 第一支部大会
男子団体 3位 女子団体 3位
一・二年男子個人の部 優勝 (伊藤直樹)
女子個人の部 3位 (磯貝なつみ) 男子選抜個人の部 3位 (池田光希)
女子硬式テニス部
東京都高等学校新人テニス選手権大会 第2回戦進出
東京都高等学校テニス選手権大会 (個人) 出場
東京都高等学校對抗テニス選手権大会出場
ハンドボール部
国公立大会第 3 回戦進出

墨水会ホームページ 開設しました



アドレスは <http://www.ab.auone-net.jp/~kysw/> です。

ホームページには会報である「墨水会だより」、「寮の空き室情報」等をのせてあります。
又会員の皆様の交流の場としても使いたく情報をお寄せ下さい。

管理人 墨田川17回 清澤健一

墨田川高校のホームページは <http://www.sumidagawa-h.metro.tokyo.jp/> です。

「墨水会だより」

第20号(記念号)

発行：墨水会事務局
 発行人：井上 常一
 編集人：清宮 胖(墨田川10回)
 墨田川高校内墨水会事務局
 〒131-0032
 墨田区東向島3-34-14
 電話：03-3611-2125(代)
 事務局代表：谷澤 尚樹(墨田川15回)

広報委員長 清宮 胖(墨田川10回)
 事務局宛にご投稿下さい。

今後本誌を、墨水会員の大きな交流の場のひとつとして、充実させたいと考えています。同期会・クラス会・グループ活動や会員(同窓生)の動向など、ぜひ事務局宛にご投稿下さい。

年末年始のとりわけ寒い中、母校「墨水会事務局」で広報委員会の開催を重ねました。校舎に入ると後輩たちの「こんにちは」という元気な挨拶が返ってきます。彼らたちの更なる成長と活躍を願いつつ、本誌の作成にあたりました。

早いもので、今年もあつという間に「墨水会だより」発行の時期がやってきました。今年のは会誌「20号」の節目の号、また、母校創立90周年記念の年でもあります。これまでより4ページ増の20ページにしました。写真を加え文字も大きくして、皆さんに読みやすい会誌作りを心がけましたが、いかがでしょうか？

編集後記